

どうして運動器疾患に針灸治療なの？



運動器疾患とは
東洋医学でいう「経筋」の病のこと。
東洋医学では2千年前から
「経筋」の病を治してきました。

- ◆ 運動器疾患には針灸が最も効果的です。
- ◆ 針灸で運動器症候群による「寝たきり」予防をはかれます。
- ◆ 医療経済的効果の高さにも注目です。
- ◆ 針灸はあらゆる部位のスポーツ傷害にも効果を上げられます。

【本書で取り上げる疾患】

関節リウマチ／線維筋痛症／慢性疲労症候群／顎関節症／脳血管障害による片麻痺／腰部部痛を来す運動器疾患（ぎっくり腰・坐骨神経痛・腰筋労損・仙腸関節炎）／頸部の疾患（肩こり・寝違い・頸椎症・肩甲間部のこり）／膝関節痛／肩関節痛／肘関節痛／顔面部の疾患（三叉神経痛・顔面神経麻痺）／胸部の痛み／股関節部の疾患（股関節部痛・変形性股関節症・大腿骨頭壊死）／上肢の疾患（上腕部・手背部の発赤腫脹と痛み・ばね指）／下肢・足部の疾患（糖尿病による下肢壊死・スポーツ傷害・痛風による関節痛・腓腹筋痙攣・下肢内側痛・踵痛・足背の踵痛・足底痛）



運動器疾患の 針灸治療

西田皓一

B5判・並製／144頁／本体2,600円＋税



中医学を学ぶための雑誌『中医臨床』（季刊）ますます面白く、実用的な内容になっています。



東洋学術出版社

ご注文は、メールまたはフリーダイヤルFAXで

FAX.0120-727-060

販売部：〒272-0823 千葉県市川市東菅野1-19-7-102 電話047-321-4428／E-mail:hanbai@chuui.co.jp／ホームページ <http://www.chuui.co.jp>

運動器疾患の針灸治療

◆主な目次

はじめに

- 1 本書の目的
- 2 本書の対象である医師と鍼灸師に

PART 1 なぜ運動器疾患に針灸治療なのか

1◆運動器疾患と針灸治療

- 1 運動器と経筋
- 2 運動器疾患に針灸治療を勧める理由
- 3 運動器疾患は東洋医学でいう「経筋病」
- 4 なぜ東洋医学は現代医学の難病を治せるのか

2◆東洋医学の診断方法

- 1 東洋医学の全体観
- 2 東洋医学の診断の進め方
【治療例】肝火上炎が原因のぎっくり腰
- 3 経筋病（運動器疾患）の病因

3◆針灸治療の作用機序

- 1 東洋医学の視点から
- 2 現代医学の視点から
- 3 「以痛為輸」と「阿是穴」との違いと共通点

4◆東洋医学の治療手段

- 1 刺針
- 2 施灸・灸頭針
- 3 刺絡
- 4 火針
- 5 拔罐療法

PART 2 運動器疾患の針灸治療の実際

治療各論に入る前に

1. 全身に運動器の異常が及んでいる疾患

1◆関節リウマチ

1 治療方針

2 治療穴

【治療例】関節リウマチ

2◆線維筋痛症

- 1 広範囲な骨格筋の疼痛の治療
- 2 慢性疲労感
- 3 精神神経障害の治療
- 4 身体痛の原因

【治療例】①典型的な線維筋痛症（奇経療法による治療例）

【治療例】②慢性疲労症候群を合併した線維筋痛症

3◆慢性疲労症候群

- 1 東洋医学からみた慢性疲労症候群
- 2 治療穴

【治療例】慢性疲労症候群

4◆顎関節症

- 1 顎関節症とは
- 2 治療穴

【治療例】顎関節症

5◆脳血管障害による片麻痺

- 1 中風の弁証分類
- 2 中風後遺症の部位別治療

【治療例】脳血管障害による片麻痺

2. 各部位の運動器疾患

1◆腰臀部痛を来す運動器疾患

- 1 治療の概要
- 2 疼痛部位の経脈別の治療法
- 3 ぎっくり腰（急性腰椎捻挫）
- 4 坐骨神経痛（梨状筋症候群）
- 5 腰筋労損
- 6 仙腸関節炎
【治療例】①奇経療法によるぎっくり腰の治療例
【治療例】②腰椎の異常の治療例

2◆頸部の疾患

- 1 肩こり
- 2 寝違ひ
- 3 頸椎症（鞭打ち症・変形性頸椎症など）

4 肩甲間部のこり（膏育辺り）

3◆膝関節痛

4◆肩関節痛

5◆肘関節痛

6◆顔面部の疾患

- 1 三叉神経痛
【治療例】三叉神経痛
- 2 顔面神経麻痺
【治療例】顔面神経麻痺

7◆胸部の痛み

8◆股関節部の疾患

- 1 股関節部痛の原因と針灸治療
- 2 変形性股関節症・大腿骨頭壊死の針灸治療
【治療例】股関節痛に奇経療法

9◆上肢の疾患

- 1 上腕痛
- 2 手背部の発赤腫脹と痛み
- 3 ばね指（弾撥指）
【治療例】弾撥指

10◆下肢・足部の疾患

- 1 糖尿病による下肢壊死
- 2 スポーツ傷害（捻挫・打撲）
- 3 痛風による関節痛
【治療例】痛風による関節痛
- 4 腓腹筋痙攣（こむら返り）
- 5 下肢内側痛
- 6 腫痛
- 7 足背の腫痛
- 8 足底痛

あとがき

参考文献

索引

の病気が「寒さ」や「熱さ」のために起こっていると考え、その原因を取り去る手段を治療法としている。

施灸や灸頭針には、気血を温めることによって気血を通じさせて病気を治す働きがある。病気は、身体が冷えるために気血の流れが滞り始めて起こっていることも多い。自覚的に冷えるを感じている場合もあるが、自覚症状に乏しい例では、他覚的に冷えるを察知する。その診断手段としては、脈診では沈寒、舌診では白く赤みがない、腹診では手で触れたときの冷感や腹筋の無力感、下腹部の臍下不仁などを参考にする。

3 刺絡

刺絡とは、穴位または病んでいる箇所から直接瘀血を排除し、気血を強く通じさせる手段である。

（1）刺絡の目的

刺絡とは、瘀血が循環しない瘀血を除去し、全身の気血のめぐりをよくする治療法である。瘀滞していた末梢性静脈の流れが改善されるため、障害されていた部位の痛みや機能不全が急速に改善される。

ほかの刺絡療法でも効果がはっきりしないときや、瘀斑や細線がある場合は刺絡することによって劇的な効果が得られる。

刺絡は、末梢性静脈系うっ血を取り去る手段である。現代医学では動脈系の循環不全を改善しようとするが、東洋医学では末梢の静脈のうっ血を改善することによって血液をよくしようとしている。

この違いを「交通渋滞」にたとえてみよう。たとえば、東京都内で交通が渋滞しているとしよう。現代医学では、都内に入る道路に相当する動脈に注目し、その流れを改善しようとする。一方、東洋医学では、都内で停滞している車を早く都外に流れるように配慮しようとする。

それ時代の時代の技術力に応じて、なんとか病気を治そうと努力している。両方の手段を用いねば、より血流はよくなるが、考え方の違いがおもしろい。

（2）刺絡の臨床効果

運動器疾患の最大の苦痛は痛みと機能不全である。刺絡することによって現れる最も著しい効果は止痛効果が得られることである。鍼灸師の仕事は、さらに以下のような効果が得られる。

- ①止痛作用（痛みを取る）
- ②消腫作用（浮腫を治す）
- ③治痛作用（痺痛を治す）
- ④止痛作用（痛みを取る）
- ⑤血管を拡張させ、微小循環を改善させる。
- ⑥井穴刺絡は全身病を治す働きがある。

4◆顎関節症

顎関節症については、現代医学の治療もある程度効果を得ているが、筆者の経験では針灸治療のほうが即効性があると感じている。以下に、現代医学の考え方や、東洋医学の見方との相違を述べてみたい。

1 顎関節症とは――

（1）現代医学からみた顎関節症の定義

顎関節症は、顎関節部の疼痛閉口時の雑音、咀嚼筋の疼痛、開口制限、閉口障害などの顎運動障害を主症状とする顎口腔系の機能障害症候群の総称である（図2-5）。

発症原因は、おもに咬合位の異常、歯ぎしりなどの悪習慣、精神的ストレス、外傷などが考えられるが、その発生機序は複雑で不明な点が多い。

治療は、おもに顎関節や咀嚼筋を生理的に安定した状態に回復させるため、咬合調整や、オクルーザス・プリントなどによる咬合位および咬合関係の改善を行う（参考文献20）。

（2）筆者の考える顎関節症診断の要点

- ①発症前に精神的要因がある。不眠・精神衰弱などの要因、多くは青年女子に多い。
- ②常に顎関節に咀嚼痛・痙攣・開口制限・摩擦音などの特徴的な症状がある。



図2-5 咀嚼と顎関節機能に關係する筋肉

（3）刺絡に用いる道具と使い方

刺絡の手法を具体的に説明する。以下の方法は、筆者が毎日の診療のなかで考案出した方法である。

三棱針は一般的に使用されている刺絡のための道具であるが、筆者は三棱針以外に、これまでの臨床経験から工夫して採血用穿刺器と注射針を使用している（図1-16）。

採血用穿刺器は、糖尿病患者在血糖を測定するために使用するものであり、一般の人々が毎日の血糖測定のために使用するよう薬局で販売されており、鍼灸師の方々で使用してもいっように差し支えない。

筆者がある講演で採血用穿刺器を使用して刺絡する方法を説明すると、後日その便利さに感謝されたことがある。痛みがほとんどないため、井穴刺絡や手足の末梢の痛みに敏感な部位への刺絡に適していると思われる。最近では、1人に1回だけしか使用できないディスポーザブルタイプの採血用穿刺器の針が発売されている。

また注射針は、細線や限局した血路を狙い撃つために適している。注射針の使用に関しては、出血させることに変わりはないが、鍼灸師の方が抵抗を感じるのなら、太めの毫針、または針先の小さな刺絡針を使用するといよい。

①刺絡のための道具

筆者が刺絡する道具としては、バネ式三棱針・毫針・注射針・血糖測定のために用いる採血用穿刺器（図1-16）・抜包用の吸引器（図1-17）・梅花針（セイイ・剛毅小児針）（図1-18・19）を用いている。そのうえ、陰圧で血液を吸引（抜包）するために吸引器が必要である。また感染予防のためにゴム手袋が必要である。



図1-16 刺絡に用いる道具



図1-17 抜包用吸引器の構造と吸角

- ①顎関節の咬合障害がある。
- ②全身の関節症状を伴うことがある。
- ③本症は、精神的緊張が咀嚼筋の機能不全を来す、肝気鬱滞による経筋障害と考えられる。

（3）東洋医学からみた顎関節症の原因と対処

①顎関節症の症状

心因的な感情が基底にあり、不眠・怒りっぽい・無感情・めまいなどが原因となつて一側、または両側の開口障害、顎関節部や顎関節の疼痛や硬直を来す。しばしば耳鳴りや脈鳴りを伴う。症状は、顎関節の異常にとどまらず全身の関節症状を伴うことがある。精神的緊張によって咀嚼筋の機能不全を来す、肝気鬱滞による経筋障害と考えられる。

②治療方針

滞っている肝気の流れをよくし（疏肝理気）、経筋の流れをよくして筋肉の緊張をゆるめる（舒筋活絡）。おもに顔面をめぐっている手足の陽明経と手太陽小腸経に取穴する。

③取穴

聴宮（小腸経）・下関（胃経）・頤車（胃経）・太衝（肝経）・陽陵泉（胆経）・合谷（大腸経）を取穴する。めまいがあれば風池。不眠があれば神門・百会（または四神総穴）を加える。

以上のように、顎関節は顔面の両側に位置しているため、その周辺を走行する経筋（手足の陽明経、手太陽小腸経・足少陽胆経）の穴位が治療に使用されることが多い。それに精神安定作用のある穴位に取穴する。

一般に、刺針直後に開口障害や開口痛はいくらか改善されることが多い。

2 治療穴

（1）主穴

①聴宮
操作：刺針するときには、口を開けて1寸ほど進針し、針感を顔部に放散させる。10分置針する。

②下関

操作：口を閉じたままで針先をやや後方にに向けて進針し、針感を側頭部から顎関節部に放散させ、瀉法で刺激する。10分置針する。